

南箕輪村むらづくり委員会（第 12 回）会議録

令和 6 年 12 月 3 日（火）
午後 7 時～午後 8 時 30 分

出席報告【出席者 計 26 名】	
むらづくり委員会 (21 名)	山岡 勉 委員 長谷川 義隆 委員 加藤 直樹 委員 高木 武 委員 唐木 茂人 委員 酒井 きよみ 委員 清水 真知子 委員 伊澤 武善 委員 足立 芳夫 委員（会長） 田口 和弘 委員 小椋 信子 委員 菅家 美果 委員 平野 幸代 委員 千 菊夫 委員 富岡 順子 委員 橋場 麻衣子 委員 入倉 眞佐子 委員（会長代理） 松田 聖一 委員 井口 千鶴 委員 吉川 つづり 委員 三澤 聡 委員
事務局（3 名）	地域づくり推進課長 高橋 地域づくり推進課 企画係長 横道 地域づくり推進課 企画係 清水
オブザーバー（2 名）	株式会社プロジェクトデザイン 亀井 株式会社プロジェクトデザイン 大槻
欠席者（7 名）	伊久間 美昭 委員 北原 泰司 委員 清水 克俊 委員 唐澤 成江 委員 宮坂 大樹 委員 原 和彦 委員 稲生 正徳 委員

1. 開会 事務局

2. 会長あいさつ 足立会長

12月に入り何かと慌ただしい時期となった。今日は穏やかな陽気であったが、週末から本格的な冬入りするとも聞く。体調には十分気を付けていただきたい。本日は盛りだくさんの内容であるが、十分ご審議いただきたい。

3. 協議事項

(1) 南箕輪村第5次総合計画の評価について 事務局より説明

【意見】

なし

(2) 総合計画重点目標・基本目標案の取りまとめ作業② オブザーバーより説明

① 重点目標案1「若者たちが未来に希望を持って住み続けられる村」

ICTとアナログの両面から特色ある教育環境の充実による次世代人材育成を進めるとともに、地域資源を活かした産業振興により、若者の多様な働き方を支援します。デジタル技術を活用した産業継続や新規創業支援を通じて若者の定住を促進し、若者が自らの可能性に挑戦できる環境を整えます。

【委員からの意見・提案】

- ・ 「若者たちが」とあるが、若者たちだけが希望を持てれば良いのだろうか。「若者」は「次世代」として表現したらどうか。若者だけでなく、将来・未来を託す人材として次世代として表現すると良いと考える。
- ・ 未来という言葉だが、「希望」という言葉があれば不要ではないだろうか。
- ・ 「特色ある教育環境の充実によって」とあるが、特色があろうがなかろうが、教育環境は充実させる必要がある。「特色ある」は不要ではないか。教育環境を充実させる、といった点を強調したらどうか。
- ・ 東京一極集中を是正することが、南箕輪村の若者が未来に希望を持って暮らせるのではないかと考える。そのための手段は何か。働く場による収入アップ、そうでないと都会へ行ってしまう。ゆとりある生活基盤をつくること。もう一つは人材育成の目線。東京に行くと競争社会となり、地方に魅力のある教育の場がないと、偏差値でみんな東京に行ってしまう。それを是正するためには魅力・特色のある教育が必要ではないだろうか。また、子育てがしやすい環境の充実。最後に村の魅力、村の文化の醸成。若い人が故郷を離れてしまう前に、故郷に誇りをもって過ごせるような文化を醸成しなければならない。ICTやアナログとか言葉があるが、これは単なる手段でしかない。村としてどういうことをやらなければならないかを決めた上で、デジタルやAIを入れていく。どれを柱にするのか、何を達成するのかを考える必要がある。

- ・ 若者に希望を持たせるというところに、何をするのか。南箕輪村って何だろうというところに、むらづくり委員会に入ってから考え、少しずつわかるようになってきた。親にも少しでも参画してもらい、村のことなどを知ってもらう必要があるかもしれない。
- (委員) 貧困にあえぐ子どもや障がいを持っている子たちがいるのも現実。次世代が未来に希望をもって過ごすというのは、こうした弱者目線が無く違和感がある。デジタル人材の育成とか、難しい子はどうするのか。
- (事務局) 目標 4 に入れている要素となる。目標に全てを入れる事は出来ないため、これらの目標郡が様々な課題などを網羅できているのか、といった視点で見ていただきたい。

② 重点目標案 2 「地域の力を育む繋がりが生まれる村」

自然との調和を通じた豊かな暮らしを基盤に、子どもから高齢者までの多世代が共生するとともに、外国籍住民を含む様々な文化的多様性を持つ人々とも共に暮らし、誰もが活躍できる地域社会を目指します。新しい働き方と伝統的な地域活動が調和し、住民が主体的にむらづくりに関わることで、持続可能な地域コミュニティを形成していきます。

【委員からの意見・提案】

- ・ 「外国籍住民を含む」という言葉が入ると、そこだけに注目されてしまう。様々な事情がある家庭・村民がいるので、外国籍だけでなく、「様々な文化、環境や背景を持つ住民」といったような表現にしたらどうだろうか。
- (事務局) 非常に悩んだ部分である。表現としてどのようにしたらよいか意見をいただきたい。
- (委員) 「外国人」とした表現はなくても、多様性を大事にするとした表現を入れたらどうだろうか。「外国人」という言葉は入れた方がよいとも考えるが、確かにそこだけが注目されるという意見があると、確かに、と感じる。
- (事務局) 分断の要因になり得そうな表現は入れたくない。
- (委員) 多様性という点で含めたいのは、社会的弱者と呼ばれる方々、例えばひとり親、不登校、障がい者など。もちろん外国籍も含めて。これを網羅して入れるのは良いと考える。そこに多様な人々を入れるということであれば、「様々な文化的多様性」だと、「様々」と「多様性」が重なっている。また「文化的」といった言葉は除いた方が良いと考える。
- (委員) 外国籍住民ではなく、表現としては「外国人住民」の方が適切と考える。
- (委員) 共存、という言葉も入れたらどうだろうか。
- (委員) 共存という言葉もいいが、「共生とか共助」を指している。『地域の力を育む共生・共助の村』とした表現ならしっくりするのではないか。

③ 重点目標案 3 「自然と都市機能が調和し、産業が息づく、暮らしやすい村」

自然環境の保全と生活利便性の高い都市機能が調和する中で、地域資源を活かした多様な産業が発展し、誰もが便利で快適に暮らせる村を目指します。地域の魅力と地域に根ざした農業を基盤に、新たな産業と雇用を創出しながら、身近な場所で買い物や移動が楽しめる交通・買い物環境の整備をすすめ、持続可能な生活圏を実現していきます。

【委員からの意見・提案】

- ・ 「自然と都市機能」という表現に違和感がある。
(委員) 都市機能という言葉はあるが、南箕輪村を「都市」と言えるかといえば、違うと思う。
(事務局) 「都市機能がある」という意味合いだが、「都市」という言葉そのものがそぐわないかもしれない。
(委員) 「都市機能」という言葉は外しても意味は通じると考える。
- ・ 教育についてどこまで村が行うものだろうか。教育方針は国で定めているものに対して、どこまで施策に盛り込めるのか。例えば愛着心を育てるようなもので「このまちに残るのが正しい」といった教育を進めるのは、それはそれで歪んだ教育とも言える。
(事務局) 村としてどこまで裁量があるのか、といった話にもなるが、政策として村の特色を出すことは間違っていない。大枠の中で、村として追加として入れることとか。例えば不登校の子の対策や居場所を作るといったところも、この教育政策にも当てはまると考える。
(委員) 石破総理の所信表明で「故郷を離れてしまう前に、故郷に誇りをもってほしい。故郷のために活躍してほしい」「魅力ある働き方」を地方創生で生み出したいと伝えていた。確かに教育において出来ることは限られるかもしれないが、考える必要はある。

④ 重点目標案4「健康と安心が織りなす、いきいきと暮らせる村」

村民の健康づくりを着実に進め、医療・福祉の充実した環境の実現を目指します。そして、誰もが心身ともに健やかに暮らせる地域社会を創造し、日常の健康づくりから災害への備えまで、誰一人取り残すことのない、しなやかで強靱な村を実現していきます。

【委員からの意見・提案】

特になし

【全体を通して】

(会長) 重点目標を定めてから全体の肉付けに入る。第5次総合計画は重点目標と基本目標をクロスさせて施策を作ったという手法を取っていたが、「目標」を冠する言葉が合計11個出来てしまい、分かりにくくなったという反省点もある。表現は変えていけたらと考えるので引き続きご意見等お願いしたい。

(3) 総合戦略答申書について 事務局より説明

4. その他

今後の日程について 事務局より説明

第13回南箕輪村むらづくり委員会 1月14日(火)19時～ 役場講堂

5. 閉会 会長代理